

プレカット ニュース

一般社団法人 全国木造住宅機械プレカット協会

東京都千代田区永田町2丁目4番3号永田町ビル6階

TEL 03 (3580) 3215 FAX 03 (3580) 3226

<http://www.precut-kyokai.com>

第3回定時社員総会開催される

当協会は、第3回定時社員総会を平成25年6月12日（水）に東京都千代田区麹町六丁目のスクワール麹町において、多数の来賓、報道関係者、会員の出席のもとで開催しました。

櫻井会長は、冒頭の挨拶の中で、「昨年の我が国経済は、円高デフレの深刻化により景気は低迷かつ不安定な状況が続いたことから、政府は、平成25年1月に、「緊急経済対策」を発表し、金融、財政、民間投資の促進を図り、デフレ脱却に向けた積極的かつ大胆な政策が展開された。プレカット加工業の業況に関連の深い平成24年度の新設住宅着工戸数は、震災復興や消費税増税等に対する駆け込み需要や政策の後押し効果もあって89万3千戸と3年連続の増加になり、今後の政策効果についても、業界として大いに期待している。



櫻井会長

一方、我が国の森林資源の供給ポテンシャルは増大しており、森林・林業再生プランの実現のために施策の展開が進められている。そのような中で、昨年春から秋口にかけて、円高デフレの影響に加えて、一時的な国産材の供給過剰による木材価格の下落は、木材産業に大きな影響を与えることとなった。プレカット加工業の業況は、地域的な差異はあるものの、工場の稼働率は高水準で推移したが、依然として加工単価は低迷を続け、また、秋以降、輸入材を中心とした資材価格の上昇は資材の入手環境を一転させ、資材価格上昇分の販売価格への転嫁が困難になるなど厳しい局面に直面した。

いうまでもなく、プレカット加工業は木材生産と木造住宅生産分野の接点に位置している。特に、本年度、実施される木材利用ポイント事業では、プレカット工場は供給業者として位置付けられ、合法木材等の認証材を適切に供給する役割が求められている。また、安全・安心の住宅供給のためCADオペレーターの役割は注目されており、昨年度、技術支援対策として実施したCAD技術者研修には130名の受講者があり、関心の高さがうかがわれた。本年度においても、引き続き研修会を開催し、CADオペレーター資格認定の実施を計画している。さらに、品質の確かなプレカット部材の供給とプレカット加工CADを活用した各種の木造住宅建築に関するサービスの支援を行っていく所存である。



林野庁木材産業課 小林重善総括課長補佐

ご来賓をはじめ関係者の皆様には、今後とも、よろしくご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。」と、厳しい環境の中で協会活動の活性化に向けた決意が述べられました。

また、来賓を代表して、林野庁木材産業課総括課長補佐 小林重善様からは、「現在、農林水産省においては攻めの農林水産業と

して、より一層積極的に農林水産業の振興拡大に向けて選択的に取り組んでいくことが検討されている。林業・木材産業においてはこれまで成長が抑制されていたが、このことは、逆に、今後の伸びしろが大きいのではないかと期待されている。

林野庁、農林水産省、政府全体として、木造住宅分野の振興に加えて、公共建築物木材利用促進法に基づき公共施設の木造化についても進めてきており、国の全機関、全都道府県、市町村の6割以上で、木材利用の方針を立てており、今後の公共施設木造化の足がかりになる。

今年度の木材利用ポイント事業では、プレカット工場が住宅業者に地域材を供給し、その証明書を発行することが不可欠の事業である。これによって、木造住宅の振興が図られ、プレカット協会の発展につながっていくものと期待している。このポイント制度は一時のものであるが、こういった制度が必要であるということについて、世の中にアピールし、消費者に喜んでいただけるということについて、今後、手を携えていきたいと考えている。

また、今後、伸びしろとして考えられるものことは、耐火木造が、低層の住宅や事務所ばかりでなく高層建築物まで拡大し、あるいは、都市の領域まで木造の需要が増加していく可能性がある。プレカット加工業においても、燃えない部材について取り組んでいただき、新たな分野での需要開拓、新たな分野での木造振興について一緒に進めることができるよう期待したい。プレカット協会の会員工場においては、A Q認証の高耐久性プレカット部材生産に取り組んでいるが、その技術力を引き続き活かしていただくようお願いする。」という激励の祝辞がありました。



公益財団法人日本住宅・木材技術センター 岸純夫理事長

次に、公益財団法人日本住宅・木材技術センター理事長 岸純夫様からは、「現在、木造軸組工法住宅の9割は、プレカット部材を使用しており、まさに、プレカットなくして木造住宅なしという状況である。このような中で、協会として、C A Dオペレーター研修や機械プレカット部材製造マニュアルを作成し普及させるなど、ご努力していることに敬意を表したい。

品質の確かなプレカット部材とはまさに会員工場が生産するA Q認証の高耐久性機械プレカット部材と乾燥機械プレカット部材である。歴史を遡るとA Q認証件数とプレカット協会会員数の動向は相関が深く、いわば一蓮托生の関係であるともいえる。協会活動の活性化はA Q認証工場の増加につながることが期待される。プレカット協会の今後益々の発展を祈念申し上げたい。」と、品質の高いプレカット部材の供給に寄与する会員工場に対する期待を述べられました。

総会の議事では、まず、平成24年度事業報告、収支決算報告が上程され、事務局説明の後、松島監事の監査報告があり、原案通り可決されました。また、平成25年度事業計画、収支予算が報告事項として上程され了承されました。なお、今回の総会は、役員任期満了に伴う改選が行われ、別紙のように新役員が選任されました。

総会に引き続き、秋田県能代市を中心に活躍される西方設計一級建築士事務所所長 西方里見氏による「地域材利用の大規模木造建築物とプレカット加工業」と題した記念講演が行われました。

講演では、まず、大規模木造建築物の技術はどこに蓄積されているかが説明され、その一例としてヨーロッパのC L Tを使用した高層木造集合住宅が紹介されました。

次に、地域ぐるみで学校のような大規模木造建築物をつくる意義としては、児童・教職員の生活・教育環境の向上、省エネ・省CO₂への貢献、経済的で豊かな空間の創造、地域経済の活性化に資するものになる旨が説明されました。事例として、在来工法でつくられた能代市立浅内小学校、能代市立第四小学校、国際教養大学宿舍等が紹介されました。この中で、特に、秋田スギを使用するための課題として、数量の確保とともに品質確保の問題、接合方法の検討（鉄骨で製作した継ぎ手の検討）、体育館のような大空間において開口部を確保するため筋かいを入れない設計面での工夫等について説明されました。



西方設計一級建築士事務所 西方里見所長

また、秋田スギの使用に当たっては、地域の林業関係者の協力によって量の確保とともに、立木の段階からの選別を徹底し、丸太の品質に応じてラミナ、構造材、羽柄材、外壁等への利用促進を図り、プレカット加工機械への投入時においても個々の部材毎に品質の確認を行っていることが説明されました。一方、寒冷地の住宅の例として、秋田スギを使用したパッシブハウスも紹介されました。80枚のスライドを使用し1時間に亘る講演をいただき参加者一同、地域材を利用した大規模建築物の指向している方向について認識を深める貴重な機会になりました。

木材利用ポイント申請受付始まる — 7月1日から全国705箇所の窓口で —

木材利用ポイントの発行、商品交換申請受付が、全国705箇所の木材、建築関連団体などの木材利用ポイント申請窓口で7月1日より始まりました。

木材利用ポイント事業については、地域材の適切な利用により、森林の適正な整備・保全、地球温暖化防止及び循環型社会の形成に貢献し、農山漁村の振興に資することを目的にしています。

今回のポイント付与の対象は、木造住宅の新築・増築又は購入、内装・外装木質化工事については、平成25年4月1日以降に着手したもの、また、木材製品及び木質ペレットストーブ・薪ストーブは平成25年7月1日以降の購入が該当します。

ご案内のとおりプレカット加工業は、この事業に供給業者としてポイント申請者が申請時に提出する木材利用ポイント納品証明書を発行する役割を担っています。これは、登録工事業者及び施主が対象となる工法に対象となる地域材を使用したことを証明する重要な書類ですので、制度の円滑な運営、地域材の利用促進及び地域振興のために適切に行われることが必要になっています。

地域林業・木材産業機械設備リース導入支援事業開始される — リースで木材加工設備導入時の費用を助成 —

全国木材協同組合連合会では、平成24年度補正予算から、地域林業・木材産業機械設備リース導入支援事業を実施しており、平成25年度事業においても引き続き実施することとしています。これは、昨年度までのリースによる高性能林業機械の導入を支援する「がんばれ!地域林業サポート事業」と、同じく木材加工設備の導入支援を行う「木材供給高度化設備リース促進事業」が統合したものです。

事業内容は、高性能林業機械や木材加工設備をリースする場合に助成するもので、川上から川下まで幅広い業種を対象としています。この中で、プレカット加工業については、建築用木製組立材料製造業が助成対象となっており、対象機械として、CAD（設計業務を自動的に行うコンピューター装置）、CAM（コンピューター制御による住宅部材製造加工装置）が含まれています。なお、助成額は、リース物件の価格、金利等によって異なりますが、リース料の6～9%になっています。詳細は、全国木材協同組合連合会、または、最寄りの各都道府県木材協同組合連合会までお問合せ下さい。

平成 25 年 6 月 12 日

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会 役 員 名 簿

(役職名)	(氏 名)	(会 社 名 等)
会 長	櫻 井 秀 弥	征矢野建材株式会社
副 会 長	尾 藺 春 雄	一般社団法人全国木材組合連合会
副 会 長	原 田 実 生	原田木材株式会社
常務理事	清 水 眞 長	一般社団法人全国木材検査・研究協会
常務理事	高 橋 秀 通	一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会
理 事	川 村 武	株式会社カワムラ
理 事	小野田 康 生	株式会社オノダ
理 事	後 藤 修 一	株式会社ウンノハウス
理 事	柵 木 裕 司	恒栄資材株式会社
理 事	山 田 範 夫	ニューハウス工業株式会社
理 事	石 川 洋 治	株式会社一条工務店
理 事	鎌 田 茂 徳	大日本木材防腐株式会社
理 事	海 部 幸 治	株式会社ケー・エイチ・ケー
理 事	榎 本 長 治	株式会社山長商店
理 事	山 下 和 夫	山下木材株式会社
理 事	吉 田 潤	山佐産業株式会社
監 事	中 野 峰 孝	株式会社中野屋銘木店
監 事	松 島 康 之	株式会社ウッド・ストラクチャー
顧 問	海 部 幸 忠	(株) ケー・エイチ・ケー代表取締役会長
顧 問	齋 藤 陸 郎	ウッドワイステクノロジー (株) 代表取締役
参 与	平 賀 昌 彦	

(順不同 敬称略)

平成24年 協会会員工場基礎調査結果について（第2回）

— 会員からみたプレカット加工率について —

平成24年12月末現在の会員工場基礎調査結果に基づき、地域別のプレカット加工率を推定しました。その結果、全国平均では88.2%となりました。会員の皆様には、お忙しい中、アンケート調査にご協力いただきありがとうございました。

プレカット加工率(%)	北海道・東北	関東	中部・近畿	中国・四国・九州	全国計
70 ～ 74	70、70、74			72	286
75 ～ 79	78			78	156
80 ～ 84	80、80				160
85 ～ 89	85、85、85	85		85	425
90 ～ 94	90	90、90、90、90、90、90	90、90、90、90、90、90	90、90	1,350
95 ～	99	95、95、95、97	95、95、95、95	95、95	1,151
合 計	896	1,007	1,020	605	3,528
(平 均)	(81.5)	(91.6)	(92.3)	(86.4)	(88.2)
〔前年平均〕	〔83.1〕	〔91.0〕	〔92.9〕	〔86.8〕	〔88.0〕

◇簡単なコメント

- 1 平成24年12月末の会員が推定する地域のプレカット加工率は、全国平均で88.2%と前回調査（平成23年12月末）に比べて0.2ポイントの上昇がみられました。総体としては、ほぼ横ばいで、頭打ちの状況とも見えますが、最近、新設住宅着工数が増加傾向にあるなかで、東日本大震災の復興需要もあり、現場での労働力不足がみられることから、プレカット加工への依存度は高まると思われます。
- 2 全国各地域のプレカット加工率については、地域間のバラツキの傾向は従来と大きく変化していませんが、加工率の低い北海道・東北地域では、1.6ポイント上昇しています。従来から、プレカット工場の立地状況や使用部材の種類の違い等により、手作業による在来継ぎ手仕口加工が多く行なわれている地域もありますが、今後の動向についても関心の持たれるところです。

プレカット業況調査(平成25年5月期)

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会調べ (回答率: 58%)

設 問	回答率 (%)			DI	前回 DI
	(1)	(2)	(3)		
1-1 今月の受注額は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	57	35	8	+ 49	- 45
1-2 3ヶ月後の受注額をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	40	57	3	+ 37	+ 51
2-1 貴社の坪あたり平均総加工単価はいくらですか。	答: 6,180 円 (対前回調査 +80 円)				
3-1 今月の製品加工単価は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	15	80	5	+ 10	- 14
3-2 3ヶ月後の製品加工単価をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	15	85	0	+ 15	- 5
4-1 今月の資材(製品)入手状況は如何ですか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難	5	70	25	- 20	- 77
4-2 3ヶ月後の資材(製品)入手状況をどう予測しますか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難	8	65	27	- 19	- 80
5-1 今月の収益は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)良い(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪い(5%以上の減)	27	40	33	- 6	- 63
5-2 3ヶ月後の収益をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	30	40	30	0	- 20

* DI = (1)の% - (3)の%、+の数値が大きいほど好況、-の数値が大きいほど不況。

* 前回調査: 平成 25 年 2 月

◇簡単なコメント

5月の各地のプレカット工場の受注額はプラスに転じたものの、資材の入手状況は依然として厳しさがあり、なかなか収益の回復には結びつかないようだ。今後、3ヶ月後においても資材の入手状況の好転は望み薄とみられるが、活発な業況によって、収益の回復は期待が持たれる。

1. 受注額のDIは+49で前回調査時(平成25年2月期)と比べて大きくプラスに転じ、前回調査時の3ヶ月後の受注額の予測値に近い実績になった。また、3ヵ月後の予測は+37となっており、引き続き旺盛な受注が続くと期待されている。
2. 3ヵ月前と比較した製品加工単価のDIは+10になった。これを反映してか、平均総加工単価は6,180円で3か月前に比べて80円上昇し、昨年11月と同額になった。また、3ヶ月後の製品加工単価のDIは+15で、加工単価は現状よりも強気に転じるものと期待される。
3. 資材の入手状況のDIは-20と前回調査時に比べて多少改善されているが、変わらずとする回答は7割を占めており、厳しさは続いている。また、3ヶ月後においても-19と予測されており、資材の入手状況の好転はなかなか予測しにくいようだ。
4. 3ヶ月前と比べた収益のDIは-6と好転のきざしがみられ、3ヶ月後の予測も0と今後の収益の回復が期待される。